



株主の皆様へ

代表取締役社長
多田野 宏一

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
ここに2016年度(2016年4月1日から2017年3月31日まで)のご報告をお届けするにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

当期におけるわが国経済は、年度後半から企業収益が改善し、設備投資・個人消費に持ち直しの動きがみられました。生産や輸出は持ち直し、景気は緩やかな回復が続いております。欧州経済は横ばい、米国経済は回復持続、新興国は減速基調にあります。中国経済による影響、原油・資源価格動向、地政学上のリスクに加え、米国の政策や欧州政治の不安定さも、より不透明感が強まっております。

私どもの業界は、日本では、復旧復興・防災減災・インフラ老朽化対策・民間建設投資等により需要は概ね堅調に推移しました。海外では、2012年をピークに需要減少が続く中、欧州は横ばい、北米・中東・東南アジアは減少、全体として需要は更に減少しました。

当期は、売上高は、日本向けが微減、海外向けが減少しました。売上減少に伴う売上総利益の低下に加え、為替等の影響により、6期ぶりの減収減益となりました。なお、長期成長に向けた生産能力の拡大のため、高松市内の工業用地約20ヘクタールを昨年11月に約24億円にて取得しました。2018年度中に新工場の稼働を目指し、約175億円を投資予定です。

今後の経済見通しにつきましては、日本では、個人消費の下押しが懸念されるものの、輸出増加、企業収益の改善に伴う設備投資の持ち直しなどから、景気は引き続き緩やかな回復が期待されます。海外では、新興国経済の減速、為替や原油価格動向に加え、地政学上のリスクの高まり、米国の政策や欧州政治の不安定さも、より不透明感が強まっております。

当社グループを取り巻く市場環境は、日本では、高稼働継続が予想される一方、オペレーター不足、トラック駆け込み需要の反動もあり、建設用クレーンは横ばい、車両搭載型クレーン・高所作業車は減少を見込んでおります。海外は、米国インフラ投資、原油・資源価格の回復による需要喚起も期待されるものの、総じて需要は減少を見込んでおります。なお、海外需要は、2012年をピークに減少を続けておりますが、需要サイクルの観点から2017年がボトムになるものと予想しております。

当社グループは、2008年度以降、事業領域を「(移動機能付)抗重力・空間作業機械=Lifting Equipment(LE)」と定め、「LE世界No.1」「海外売上比率80%」「安定的高収益企業(平時の営業利益率20%)」の3つを長期目標としております。

世界の人口動態を考えれば、LE業界は長期的には成長産業であり、今後のポテンシャルは高いと考えております。しかしながら、短中期的には市場変動が激しい事業特性を有しております。

当社グループは、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を実現するために、3年毎に中期経営計画を策定しております。建設用クレーンの海外需要が2012年をピークに減少する中、「『強い会社』」に基本方針とし、「更なるグローバル化」「耐久性アップ」「競争力強化」を重点テーマとする「中期経営計画(14-16)」に取り組み、シェアアップ・高付加価値商品の拡販等により業績向上を図って参りました。その結果、2014年度と2015年度は2年連続で過去最高の売上高と営業利益を更新し、ROS(売上高営業利益率)は14.4%・14.8%、ROA(総資産営業利益率)は13.9%・13.5%と高水準で推移しました。しかしながら、当社は未だ「強い会社」への途上にあり、最終年度は需要の更なる減少の影響により、ROS10.3%、ROA7.9%への低下を余儀なくされました。

2017年度をスタートとする「中期経営計画(17-19)」は「『強い会社』(赤い矢印に集中)」を基本方針として、3つの重点テーマ実現のために、9つの戦略に取り組み参ります。「(『中期経営計画(17-19)』の詳細につきましては次ページからの「タダノグループ『中期経営計画』について」をご覧ください。)

なお、2017年度は、「中期経営計画(17-19)初年度への取り組み」「『赤い矢印』への集中と『黄色い矢印』への取り組み」「『青い矢印』の変化への備えと競争激化への対応」を推進して参ります。

また、当社グループは、「中期経営計画(17-19)」の最終年度の2019年8月29日に創業100周年を迎えます。

私たちがタダノグループは、「企業が社会や人との調和の中に生かされている存在」との認識のもと、地域社会・国際社会発展への貢献と地球環境の保全に役立つ事業活動を推進し、全てのステークホルダーの期待に応え、企業価値を最大化することで、「世界に、そして未来に誇れる企業」を目指します。

当期の期末配当金につきましては、1株13円とさせていただきます。なお、中間配当金13円を合わせ、年間配当金は前期と同額の1株につき26円となりました。

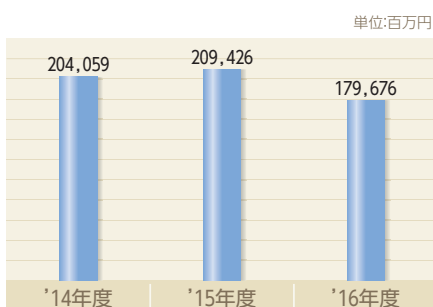
株主の皆様には、今後とも格別のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。
2017年6月

営業の経過及び成果

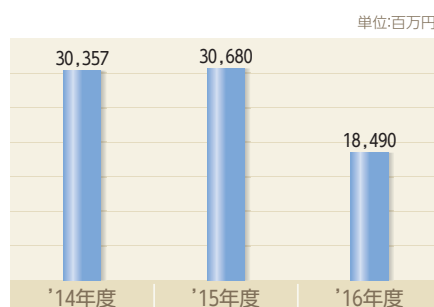
日本向け売上高は、建設用クレーンが減少、車両搭載型クレーンが微減、高所作業車が増加し、1,022億7千万円(前期比97.4%)となりました。海外向け売上高は、新規顧客の開拓に注力したものの、需要の更なる減少・円高基調のなか、774億6百万円(前期比74.1%)となりました。この結果、総売上高は1,796億7千6百万円(前期比85.8%)となりました。なお、海外売上高比率は43.1%となりました。

売上減少に伴う粗利益低下に加え、為替等の影響により、営業利益は184億8千4百万円(前期比59.5%)、経常利益は184億9千万円(前期比60.3%)となりました。親会社株主に帰属する当期純利益は、中国の関係会社出資金評価損等による特別損失12億9千8百万円を計上し、118億8千1百万円(前期比60.6%)となりました。

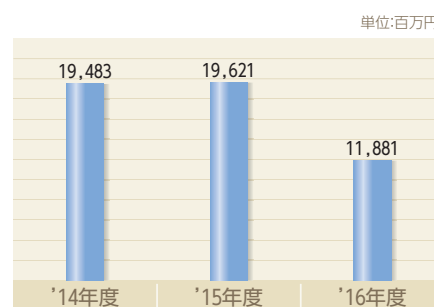
売上高



経常利益



親会社株主に帰属する当期純利益



タダノグループ「中期経営計画(17-19)」について

基本方針

「強い会社」に (赤い矢印に集中)



Q 2016年度で終了した「中期経営計画(14-16)」の振り返りをお願いします。

A 「中期経営計画(14-16)」は、建設用クレーンの海外需要が2012年をピークに減少する中、いかなる外部環境にあろうとも、「利益を出す」・「人を育てる」ことを毎期継続することができる「強い会社」に」を基本方針とし、「更なるグローバル化」・「耐性アップ」・「競争力強化」を重点テーマとして、スタートしました。

	中計目標	14年度	15年度	16年度
売上高	2,200億円	2,040億円	2,094億円	1,796億円
営業利益	300億円	294億円	310億円	184億円
ROS	13.6%	14.4%	14.8%	10.3%
ROA	13.0%	13.9%	13.5%	7.9%

グループ一体となって、7つの戦略(基幹市場の拡充と戦略市場の拡大・No.1商品の提供とラインナップの充実・グローバル&フレキシブルものづくりへの取り組み・感動品質、感動サービスの提供・ライフサイクル価値の向上・収益力のレベルアップ・グループ&グローバル経営基盤の強化)に取り組み、シェアアップ・高付加価値商品の拡販等により業績向上を図って参りました。その結果、2014年度と2015年度は2年連続で過去最高の売上高と営業利益を更新し、ROS(売上高営業利益率)は14.4%・14.8%、ROA(総資産営業利益率)は13.9%・13.5%と高水準で推移しました。しかしながら、当社グループは未だ「強い会社」への途上にあり、最終年度は需要の更なる減少の影響により、ROS10.3%、ROA7.9%への低下を余儀なくされました。

※ROS(売上高営業利益率) = 当期の営業利益 / 当期の売上高
ROA(総資産営業利益率) = 当期の営業利益 / 前期末と当期末の総資産の平均

Q 事業の全体像のポイントは？

A 当社グループは、「事業目的：経営理念(創造・奉仕・協力)の実現」、「ビジョン：世界に、そして未来に誇れる企業を目指して」、「コアバリュー：安全第一・品質第二・効率第三」を掲げております。これらは、外部環境がどう変化しようとも変わることのない、不変の理念・価値観です。



【ビジョン】

世界に、そして未来に誇れる企業を目指して

私たちがタダノグループは、全てのステークホルダーの期待に応え、企業価値を最大化します。「学習し、成長し続ける組織文化」を構築します。

【コアバリュー】

安全 Safety 【S】 つくる人、使う人、そして社会の人々の全ての安全を最優先します
品質 Quality 【Q】 質の向上を追求し、製品・サービス・業務の品質を高めます
効率 Efficiency 【E】 業務効率を向上させるとともに、顧客の経営効率改善に寄与します

安全第一・品質第二・効率第三という優先順位はどんな時も変わりません。但し、三番目の効率を強きにして企業経営は成り立ちません。そのために「安全第一」・「品質第二」を何としても確保しなければなりません。

また、長期的に追い求める目標・方針として、事業領域をLEと定め、「LE世界No.1」・「海外売上比率80%」・

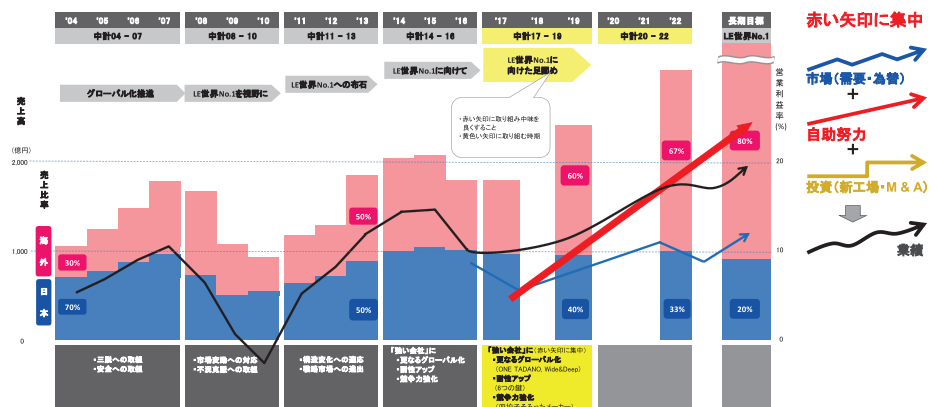
「安定的高収益企業(平時の営業利益率20%)」の3つの長期目標と、4つの重要方針(安全衛生方針・品質方針・環境方針・技術方針)を定めております。世界の人口動態を考えれば、LE業界は長期的には成長産業であり、今後のポテンシャルは高いと考えております。

※LE: Lifting Equipment=(移動機能付)抗重力・空間作業機械
「中期経営計画(08-10)」で、当社グループは事業領域をLEと決めました。

Q 「中期経営計画(17-19)」の位置付けは？

A 長期的な成長を目指すべく、長期目標に向けた中間目標として2022年度に売上高3,000億円(日本1,000億円、海外2,000億円)・営業利益500億円の数値目標を設定しました。中間目標達成のため、「中期経営計画(17-19)」は今後3年間で取り組むべきことを策定しました。

当社グループでは、「中期経営計画(17-19)」の位置付けを「LE世界No.1に向けた足固め」の期間と捉えております。また、「市場：需要・為替(=青い矢印)」というコントロールできない環境の中で、事業に対する「自助努力(=赤い矢印)」に集中し、これに「投資(=黄色い矢印)」の成果を加えたものが、「業績(=黒い矢印)」と位置付けております。「強い会社」になるために「赤い矢印」に集中することを基本方針としたものです。



Q 今回の中期経営計画の基本方針は？

- A 基本方針は、いかなる外部環境にあろうとも、「利益を出す」・「人を育て続ける」を毎期継続することができる**「強い会社」に(赤い矢印に集中)**としました。
- 重点テーマは、「更なるグローバル化(ONE TADANO, Wide & Deep)」、「耐性アップ(6つの鍵)」、「競争力強化(四拍子そろったメーカー)」としました。
- 基本方針も重点テーマも、「中期経営計画(14-16)」を踏襲しておりますが、更に深化した内容になっています。

中計(17-19)基本方針

「強い会社」に(赤い矢印に集中)

「強い会社」とは、いかなる外部環境にあろうとも、「利益を出す」・「人を育てる」を毎期継続することができる会社

3つの重点テーマ

- ・更なるグローバル化
(ONE TADANO, Wide & Deep)
- ・耐性アップ
(6つの鍵)
- ・競争力強化
(四拍子そろったメーカー)



Q 「競争力強化(四拍子そろったメーカー)」とは？

- A 競争とは相対的なものであり、他のメーカーよりも付加価値の高い商品・サービスを提供し、顧客に選ばれる・選ばれ続けるメーカーになる必要があります。四拍子そろったメーカーすなわち、「①商品力」・「②製品品質」・「③部品を含めたサービス力」・「④中古車価値」の4つが高いレベルでバランス良く整った状態となることによって、顧客から見た商品価値を最大限に高めたいと考えています。
- 特に、製品品質とサービス力は当社グループのコアコンピタンスであり、その前後を商品力と中古車価値の二つで挟み込みたいと考えています。4つを磨き込み、獲得するには一つひとつそれぞれに時間と手間が掛かります。4つが高いレベルでバランス良く整った状態になることで四拍子によるシナジー効果(相乗効果)を発揮することができます。このため、たとえ他のメーカーが一つひとつを達成できたとしても、四拍子には簡単に追従できないと考えています。

四拍子そろったメーカー

商品力
+
製品品質
+
部品を含めた
サービス力
+
中古車価値

・継続的に磨きこみ、
長期にわたって獲得していく
競争優位性

・四拍子そろったメーカーに！

Q 実現のための戦略を教えてください。

- A 次の9つの戦略に取り組んでまいります。
- ①市場ポジションアップ
 - ②商品力強化
 - ③グローバル&フレキシブルものづくりへの取り組み
 - ④感動品質・感動サービスの提供
 - ⑤ライフサイクル価値の向上
 - ⑥ソリューションビジネスへの取り組み
 - ⑦収益力・資産効率のレベルアップ
 - ⑧成長基盤の確立
 - ⑨グループ&グローバル経営基盤の強化

Q 3年後の数値目標は？

- A 2019年度に、売上高2,400億円(日本向け960億円・海外向け1,440億円)、海外売上高比率60%、営業利益360億円、たな卸資産回転率4.8回転、ROA(総資産営業利益率)13%を目指します。

また、長期的な成長を目指すべく、長期目標に向けた中間目標として2022年度に売上高3,000億円(日本1,000億円、海外2,000億円)・営業利益500億円の数値目標を設定しました。

※数値目標の前提：為替レート110円/ドル・120円/ユーロ

	16年度	19年度目標	中間目標(22年度)
売上高	1,796億円	2,400億円	3,000億円
日本向け	1,022億円	960億円	1,000億円
海外向け	774億円	1,440億円	2,000億円
海外売上高比率	43.1%	60.0%	66.7%
営業利益	184億円	360億円	500億円
たな卸資産回転率	3.3回転	4.8回転	
ROA	7.9%	13.0%	

Q 最終年度の2019年に創業100周年を迎えますね？

- A 会社設立は1948年8月24日ですが、創業者多田野益雄が溶接業を立ち上げるべく高松から北海道旭川へ旅立った1919年8月29日を創業の日と定めております。
- 当時は、海外において溶接技術が普及・発展し始めた時期で、日本にも導入され始めた頃でした。創業者は、溶接の青い火花に魅了され、世の中のお役に立つことを確信し、北海道の地で事業化に踏み切ったものです。

Q 最後に、株主の皆様へメッセージをお願いします。

- A LE業界の長期成長性に対する「大きな期待」と、業界の不安定さに対する「強い危機感」を持って、当中期経営計画の基本方針・重点テーマに取り組んでおります。3年間の中期経営計画毎に、それらの実現に少しずつでも着実に近づくことができれば、LE業界では競争優位性を獲得することができ、厳しい時期にこそ他のメーカーに先んじて次の一手が打てる会社になれます。そして、何よりも厳しい時期を乗り越えるたびに強さを増していく、そういう会社でありたいと考えております。

高い志と強い意志を持ち、ビジョンに掲げる「世界に、そして未来に誇れる企業」を目指して取り組んでまいります。株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

タダノグループの連結業績の概況

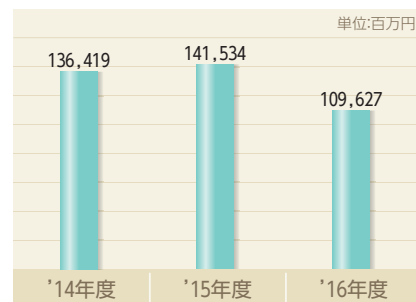
タダノグループの主要品目別売上高の推移

■建設用クレーン

日本向け売上は、需要が減少するなか、拡販に注力したものの、新モデルへの生産移行の影響もあり、450億1千7百万円（前期比88.1%）となりました。

海外向け売上は、新規顧客の開拓に注力したものの、需要の更なる減少・円高基調のなか、646億9百万円（前期比71.4%）となりました。

この結果、建設用クレーンの売上高は1,096億2千7百万円（前期比77.5%）となりました。



トラッククレーン
(建設用クレーン)



オールテレーンクレーン
(建設用クレーン)



ラフテレーンクレーン
(建設用クレーン)

■車両搭載型クレーン

日本向け売上は、需要が減少するなか、拡販に注力し、181億9千2百万円（前期比97.4%）となりました。

海外向け売上は、新興国向けの販売に注力したものの、14億4千万円（前期比85.3%）となりました。

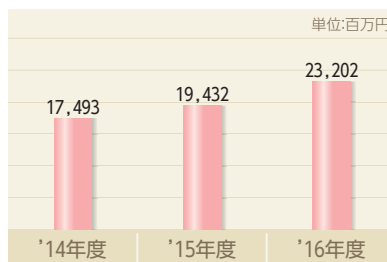
この結果、車両搭載型クレーンの売上高は196億3千3百万円（前期比96.4%）となりました。



カーゴクレーン
(車両搭載型クレーン)

■高所作業車

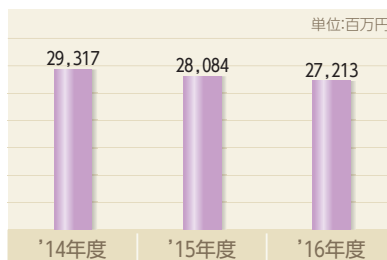
インフラ点検用途のニーズを背景に好調なレンタル業界に加え、電力電工業界の設備投資もあり、高所作業車の売上高は232億2百万円（前期比119.4%）となりました。



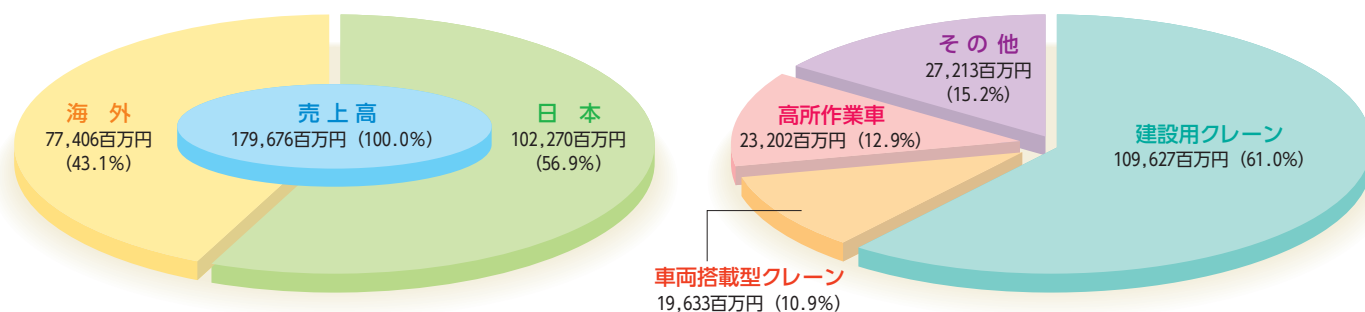
スーパーデッキ
(高所作業車)

■その他

部品、修理、中古車等のその他の売上高は272億1千3百万円（前期比96.9%）となりました。



タダノグループの売上高構成比率 (当期)



連結財務諸表

連結貸借対照表

(前 期)：2016年3月31日現在
(当 期)：2017年3月31日現在

単位:百万円

科 目	前 期	当 期
(資 産 の 部)		
流動資産	185,483	177,965
現金及び預金	73,618	68,745
受取手形及び売掛金	51,143	48,717
商品及び製品	24,404	25,764
仕掛品	18,118	20,263
原材料及び貯蔵品	10,499	8,850
繰延税金資産	4,217	3,452
その他	3,626	2,357
貸倒引当金	△ 144	△ 186
固定資産	49,917	51,834
有形固定資産	38,982	41,183
建物及び構築物	11,819	12,483
機械装置及び運搬具	2,909	3,005
土地	20,176	22,513
リース資産	534	492
建設仮勘定	1,473	979
その他	2,067	1,708
無形固定資産	1,187	1,181
投資その他の資産	9,747	9,469
投資有価証券	5,407	6,190
繰延税金資産	2,677	2,620
その他	2,513	1,666
貸倒引当金	△ 851	△ 1,008
資産合計	235,400	229,799

科 目	前 期	当 期
(負 債 の 部)		
流動負債	70,028	55,515
支払手形及び買掛金	35,845	26,080
短期借入金	16,210	15,448
リース債務	233	216
未払金	5,014	5,205
未払法人税等	5,523	2,470
引当金	1,756	1,497
未経過割賦販売利益	207	152
その他	5,239	4,444
固定負債	30,575	31,734
社債	10,000	10,000
長期借入金	10,023	11,237
リース債務	402	333
繰延税金負債	166	147
再評価に係る繰延税金負債	2,109	2,109
退職給付に係る負債	7,322	7,299
その他	550	607
負債合計	100,603	87,250
(純 資 産 の 部)		
株主資本	133,190	141,746
資本金	13,021	13,021
資本剰余金	16,850	16,855
利益剰余金	105,960	114,507
自己株式	△ 2,642	△ 2,637
その他の包括利益累計額	1,024	318
その他有価証券評価差額金	850	1,732
土地再評価差額金	1,228	1,270
為替換算調整勘定	△ 112	△ 1,875
退職給付に係る調整累計額	△ 942	△ 809
非支配株主持分	582	484
純資産合計	134,796	142,549
負債純資産合計	235,400	229,799

連結損益計算書

(前 期)：2015年4月1日から2016年3月31日まで
(当 期)：2016年4月1日から2017年3月31日まで

単位:百万円

科 目	前 期	当 期
売上高	209,426	179,676
売上原価	146,298	129,682
割賦販売利益繰延前売上総利益	63,127	49,993
未経過割賦販売利益戻入	113	207
未経過割賦販売利益繰入	205	152
売上総利益	63,036	50,048
販売費及び一般管理費	31,973	31,564
営業利益	31,062	18,484
営業外収益	623	758
営業外費用	1,006	752
経常利益	30,680	18,490
特別利益	517	150
特別損失	1,080	1,298
税金等調整前当期純利益	30,117	17,342
法人税、住民税及び事業税	11,412	5,034
法人税等調整額	△ 803	366
当期純利益	19,508	11,940
非支配株主に帰属する当期純利益又は非支配株主に帰属する当期純損失(△)	△ 113	58
親会社株主に帰属する当期純利益	19,621	11,881

連結キャッシュ・フロー計算書

(前 期)：2015年4月1日から2016年3月31日まで
(当 期)：2016年4月1日から2017年3月31日まで

単位:百万円

科 目	前 期	当 期
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	19,387	3,301
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,758	△ 4,798
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,136	△ 2,495
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 634	△ 836
V 現金及び現金同等物の増減額	11,857	△ 4,828
VI 現金及び現金同等物の期首残高	61,262	73,120
VII 現金及び現金同等物の期末残高	73,120	68,291

タダノ・グローバル・パーツセンター稼働

2016年5月より兵庫県神戸市にて「タダノ・グローバル・パーツセンター」が稼働しました。神戸市に部品供給拠点を置くことにより、国際港・国際空港に近いメリットを活かし、全世界のお客様への部品供給のデリバリータイムを短縮します。

タダノグループは長期目標「LE(※)世界No.1」「海外売上比率80%」「安定的高収益企業(平時の営業利益率20%)」を掲げ、グローバルでの持続的成長を実現しつつ、世界中のお客様サポートの向上と充実を目指しております。

(※) LE: Lifting Equipment = (移動機能付) 抗重力・空間作業機械



新工場、建設用地取得

長期目標であるLE世界No.1の達成に向けた生産能力拡大のため、現在の志度工場に加え、建設用大型クレーンを製造する新工場が必要と判断しました。

このため、香川県が所有する高松港香西(西)地区埋立地の工業用地約20ヘクタールを2016年11月に取得しました。新工場は「人と機械が調和し、次世代につながるスマート工場」として2018年度中の稼働を目指します。なお、土地取得費用も含めて約175億円の投資額を予定しております。



当社用地は赤枠部分。遠景に屋島を望む。
(高松市中心部より西に車で約10分。本年5月撮影。)

ラフテレーンクレーン「CREVO700 G4」「CREVO250 G4」「CREVO160 G4」発売

タダノグループのコアバリュー「安全・品質・効率」を具現化すべく、使いたい、乗りたいと思っていただけるクレーンを目指して開発したCREVO(クレヴォ)シリーズの4世代目製品です。クレーン業界では世界初となる人物検知警報装置「ヒューマンアラートシステム」や、国内初の俯瞰映像表示装置「ワイドサイトビュー」を搭載しています。

本製品は「2016年度グッドデザイン賞」を受賞しました。安全走行をアシストする新機能の安全性や、新型キャビンの作業効率・操作性、威圧感を感じさせないよう市街地の作業環境に配慮した外観が評価されました。



CREVO700 G4 (GR-700N)

CONEXPO2017 海外向け新型ラフテレーンクレーン出展

2017年3月、米国ラスベガスで世界最大級の総合建機展CONEXPO(コネクスポ)が開催されました。各国から2500社が参加し、5日間で13万人を超える人々が訪れました。

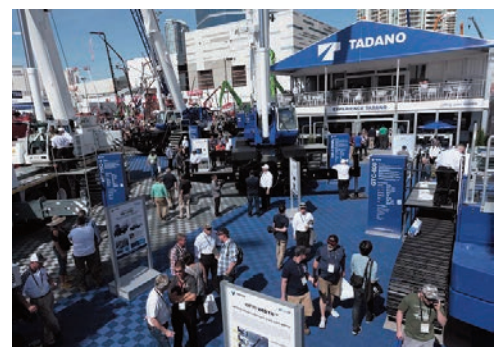
タダノグループからは新製品「GR-1200XL/1100EX」(※)を含むラフテレーンクレーン4台、オールテレーンクレーン3台、クローラクレーン2台を出展しました。

「GR-1200XL/1100EX」は、コンパクトな2軸キャリアとしては当社として最大の吊上げ能力と作業領域を有しており、2017年秋の発売を予定しています。海外市場、特に北米におけるエネルギー資源開発の現場では、狭所への進入性に優れた大型ラフテレーンクレーンが求められており、さらに吊上げ能力100tを超えるクラスへのニーズが高いことから、新たに開発しました。

多数のお客様にタダノブースを訪れていただき、高品質、高性能なタダノ製品を広くアピールする大変良い機会となりました。

(※) GR-1200XL(北米及び中南米向け:120アメリカショートトン)

GR-1100EX(上記以外:110メトリックトン)



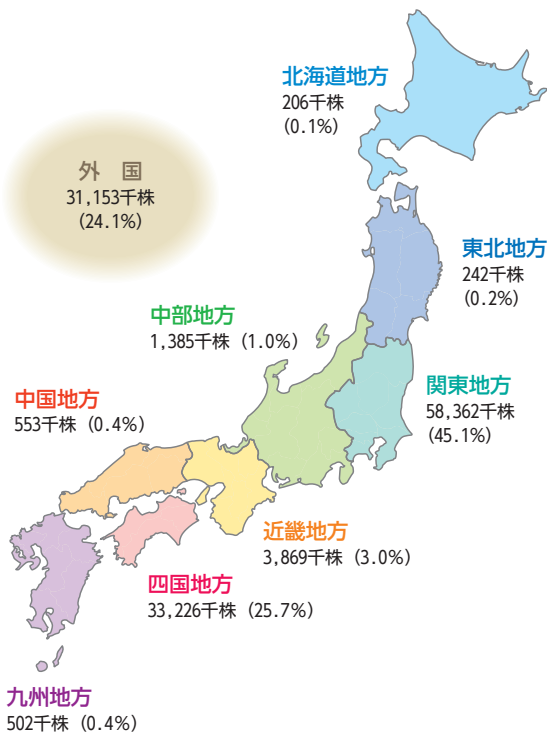
株式の状況 (2017年3月31日現在)

株式の状況

発行可能株式総数	400,000,000株
発行済株式の総数	129,500,355株
株主数	8,294名

注) 発行済株式の総数には、自己株式2,867,920株を含んでおります。

地域別株式分布状況



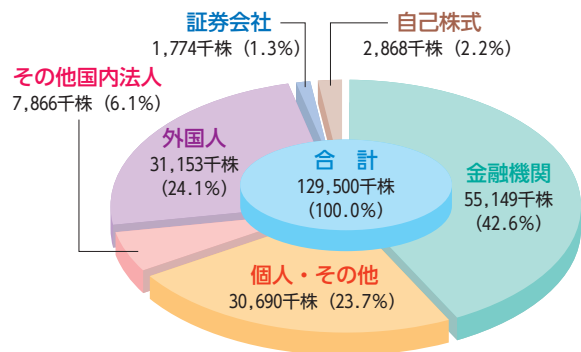
注) 四国地方には、自己株式2,867,920株を含んでおります。

大株主

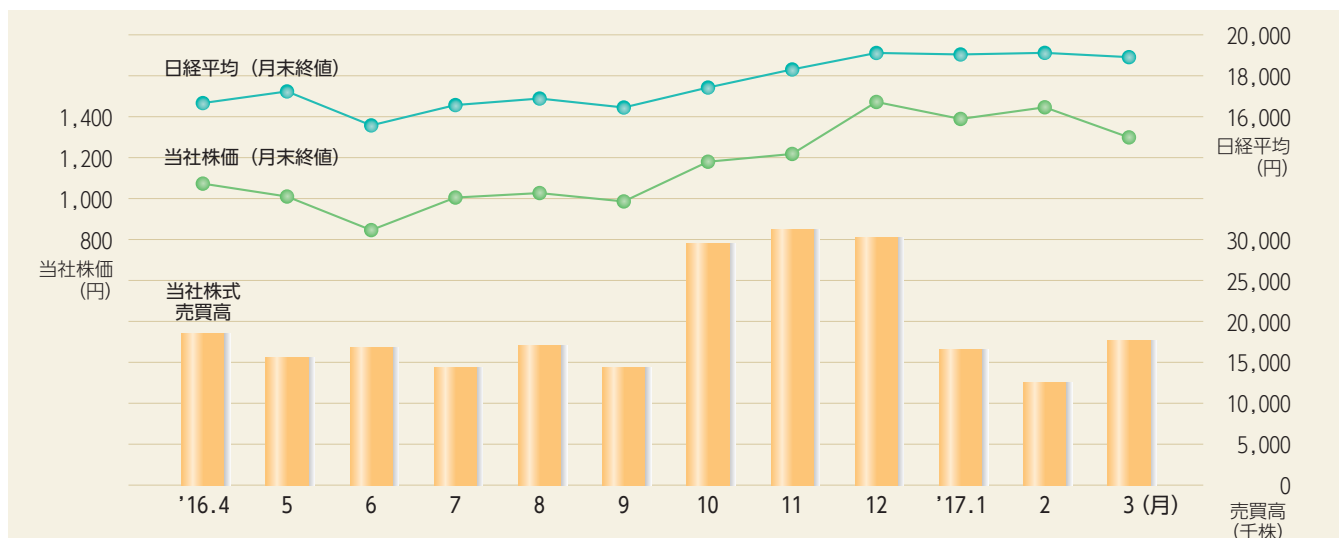
株主名	所有株式数 (千株)	持株比率 (%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	15,025	11.8
日本生命保険相互会社	6,301	4.9
株式会社みずほ銀行	5,746	4.5
株式会社百十四銀行	5,671	4.4
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	4,092	3.2
明治安田生命保険相互会社	4,000	3.1
株式会社三菱東京UFJ銀行	3,367	2.6
第一生命保険株式会社	3,215	2.5
タダノ取引先持株会	2,807	2.2
株式会社伊予銀行	1,572	1.2

注) 1. 当社は自己株式を2,867,920株保有しておりますが、上記大株主からは除外してあります。
 2. 持株比率は、自己株式を控除して計算しております。
 3. 信託銀行各社の所有株式数は、すべて当該各社の信託業務に係る株式であります。
 4. 第一生命保険株式会社の所有株式数には、特別勘定口に係る株式数を含んであります。

所有者別株式分布状況



株価及び株式売買高の推移



注) 東京証券取引所市場第一部におけるものです。

会社概要

概要 (2017年3月31日現在)

商号	株式会社タダノ TADANO LTD.
資本金	13,021,568,461円(発行済株式の総数 129,500,355株)
設立	1948年8月24日
従業員数	単独1,433名 連結3,346名
事業内容	建設用クレーン、車両搭載型クレーン及び高所作業車等の製造販売
本社工場	香川県高松市新田町甲34番地 高松工場(高松市)、志度工場(さぬき市)、 多度津工場(香川県多度津町)、千葉工場(千葉市)
研究所・試験場	技術研究所(高松市)、三本松試験場(東かがわ市)
支店・営業所	10支店・23営業所
海外事務所	北京事務所、中東事務所

グループ会社

[国内]	[海外]
株式会社タダノアイメス	タダノ・ファウン GmbH [ドイツ]
株式会社タダノアイレック	タダノ・ファウン・シュタールパウ GmbH [ドイツ]
株式会社タダノエステック	タダノ・ユーカー Ltd. [イギリス]
株式会社タダノエンジニアリング	タダノ・フランス SAS [フランス]
株式会社タダノテクノ東日本	タダノ・アメリカ Corp. [アメリカ]
株式会社タダノテクノ西日本	タダノ・マンティス Corp. [アメリカ]
太平機工株式会社	タダノ・アメリカ・ホールディングス Inc. [アメリカ]
日通重機サービス株式会社	タダノ・パナマ S.A. [パナマ]
株式会社タダノ教習センター	タダノ・ブラジル・エキバントス・デ・エレヴァソン Ltda. [ブラジル]
株式会社タダノ物流	多田野(北京)科貿有限公司 [中国]
株式会社タダノシステムズ	京城多田野(北京)液圧機器有限公司 [中国]
株式会社タダノビジネスサポート	韓国多田野株式会社 [韓国]
	タダノ・アジア Pte Ltd. [シンガポール]
	タダノ・タイランド Co., Ltd. [タイ]
	タダノ・タイ・パーツ・アンド・サービス Co., Ltd. [タイ]
	タダノ・インディア Pvt. Ltd. [インド]
	タダノ・オセアニア Pty Ltd [オーストラリア]
	エーエムエル・イクイップメント Pty Ltd [オーストラリア]
	北起多田野(北京)起重機有限公司 [中国] *
	台湾多田野股份有限公司 [台湾] *

注) *印は関連会社、他は全て連結子会社です。

役員 (2017年6月27日現在)

代表取締役社長	多田野 宏	一正
代表取締役副社長	鈴木 山	正環
取締役・執行役員専務	奥山 陽一	朗彦*
取締役・執行役員常務	西藤 伸康	之*
取締役	吉田 康	
執行役員常務	アレクサンダー・クネヒト	
執行役員常務	飯村 慎一	
執行役員常務	高梨 利幸	
執行役員常務	橋倉 荘六	
執行役員常務	澤田 憲	
執行役員	程川 本	一節親
執行役員	藤野 博	之行
執行役員	高多田 啓	有司
執行役員	池野 浦	雅彦
執行役員	林 田	宏耕
執行役員	徳五	裕幸
執行役員	官野	耕雄
執行役員	インゴ	シラ
執行役員	合田	洋之
常勤監査役	児玉 義人	
常勤監査役	北村 明彦	
常勤監査役	井之川 和司*	
監査役	三宅 雄一	

注) *印は、社外取締役及び社外監査役であります。



タダノ・マンティス Corp. [アメリカ]
(建設用クレーン等の製造・販売)

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
期末配当金支払株主確定日	毎年3月31日
中間配当金支払株主確定日	毎年9月30日
基準日	定時株主総会については毎年3月31日 その他必要がある場合には、あらかじめ公告して定めます。
公告の方法	電子公告により、当社ホームページ(http://www.tadano.co.jp/)に掲載いたします。ただし、やむを得ない事由により電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
お取扱窓口	証券会社等に口座をお持ちの場合、住所変更や買取請求等株主様の各種お手続きは、原則として口座を開設されている証券会社等経由で行っていただくこととなりますので、お取引の証券会社等へご連絡をお願いいたします。証券会社等に口座をお持ちでない場合(特別口座の場合)、下記のお取扱店にてお取扱いいたします。なお、支払明細の発行に関するお手続きにつきましては、みずほ信託銀行の下記連絡先にお問合せください。
お問合せ先	〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行 証券代行部 ☎0120-288-324 (土・日・祝日を除く 9:00~17:00)
お取扱店	みずほ証券 本店および全国各支店 プラネットブース(みずほ銀行内の店舗)でもお取扱いいたします。 みずほ信託銀行 本店および全国各支店 ^(※) (※)トラストラウンジではお取扱できませんのでご了承ください。
未払配当金のお支払	みずほ信託銀行 本店および全国各支店 ^(※) みずほ銀行 本店および全国各支店(みずほ証券では取次のみとなります) (※)トラストラウンジではお取扱できませんのでご了承ください。

ホームページのお知らせ

ホームページにアクセスしていただきますと、当社の各種情報をご覧いただけます。



<http://www.tadano.co.jp/>

